

子実用トウモロコシ栽培で拓く水田の新たな輪作体系

～成田市で農林水産研究推進委託プロジェクト研究始まる～

印旛農業事務所改良普及課 令和3年9月9日発

輸入飼料価格の高騰が続く中、家畜飼料用の栄養価の高い子実のみを収穫する子実用（実取り）トウモロコシ栽培が印旛管内で拡大しており、佐倉市と成田市の水田では8.5ha 栽培されています。昨年は汎用型コンバインでの収穫を行いましたが、収穫時のロスが課題でした。そこで、農研機構のプロジェクト研究「畜産生産の現場に濃厚飼料を安定・低コストに供給できるシステムの開発」に県畜産総合研究センターと農業事務所が協力し、専用収穫機「スナツパヘッド」の実証試験を実施し、収穫ロスが削減できるか検証しました。その結果、収穫ロスを1%以下に抑えられ、高い実用性が確認されました。実施農家は、労力分散と水田高度利用のため、今後も子実用トウモロコシ栽培を拡大したい意向です。

農業事務所では今後も水田利活用による自給飼料拡大に向けた支援を行っていきます。



収穫時の様子



収穫直後の子実用トウモロコシ
(水分27%)